

要件定義・実装に向けた論点整理のご提案

3つの要件ドラフトの統合と実装前論点の整理

2026年4月30日

本資料の目的

3つの要件ドラフトを統合し、実装前に解決すべき論点を明確化する

- 社内で共有された3つの要件ドラフト（①複数取引先、②内部文書、③重複防止）を精査しました。
- 本資料では、「**実装前に揃えたい論点**」を整理し、スムーズな開発着手を目指します。
- 現場の運用とシステムの期待値を一致させ、**手戻りのない実装**を実現するための提案です。

3つの要件の全体像と対応関係

独立した要件を「案件」という共通の文脈で統合する

記号	要件の名称	主な内容
①	案件一複数取引先	1つの案件に複数の取引先が紐づく運用への対応
②	内部文書	稟議書・事前申請書・事後報告書のテンプレと承認フロー
③	取引先重複防止	チャット登録時の重複抑止と正規化ルール適用

これら3点は相互に関連しており、特に「①案件」と「②内部文書」の繋がりが運用の鍵となります。

出張申請・報告の運用定義

出張の事前申請・事後報告を、システム上どちらのルートに寄せますか？

A案：内部文書ルートに集約

全ての出張申請を「正式な文書」として扱います。

- ・文書番号が採番される
- ・承認フローが必須
- ・PDF帳票が出力可能

B案：案件記録と使い分け

正式な申請は「内部文書」、簡易メモは「案件タイムライン」と棲み分けます。

- ・運用の柔軟性が高い
- ・ユーザー教育が必要

? ご質問・ご確認

社内規程チェックの導入範囲

初回リリースにおいて、AIによる社内規程の自動チェック機能を含めますか？

A案：初回から実装する

稟議申請時にAIが自動で規程違反をチェックします。

- ・利便性は高いが、開発工数が増加
- ・規程データの整備が並行して必要

B案：次期フェーズ以降とする

初回は基本機能に絞り、AIチェックは後日追加します。

- ・早期リリースが可能
- ・将来の拡張を考慮した設計のみ実施

【要件①】 案件と複数取引先の紐付け

画面表示とレポート集計のルール定義により認識齟齬を防ぐ

表示ルールの確定

- 案件一覧の「取引先」列が空の場合の表示ルール（「**複数**」「**要確認**」「**—**」など）を明確に定義します。

集計・レポート方針

- レポートや集計では「案件の取引先」ではなく、常に「**各取引（明細）の取引先**」を使用するルールを明示します。
- 会計・営業向けの数値報告において、データの整合性を担保するための**技術的・運用的ルール**を周知します。

ユーザー体験（UX）の向上

- 案件画面のヘルプやツールチップに「**表示されている取引先は目安**」である旨を記載し、現場の混乱を回避します。
- 1案件 = 1社契約という従来の固定概念から、**1案件 = 一連の文脈**という新しい概念への図解の差し替えを提案します。

【要件②】 内部文書（稟議・申請）の仕様

業務実態に即したステータス管理と帳票設計を行う

ステータス管理の最適化

- 銀行消込が発生しない内部文書において、「**決済待ち**」という表現が適切か再検討が必要です。
- ユーザーの混乱を防ぐため、文書種別に合わせた**ラベルの調整**を検討します。

承認ルールの特例定義

- 事後報告で**金額が0円**の場合でも、承認者の確認が必要な社内ルールがあるか確認します。
- 「自動承認」とするか「目視確認必須」とするかの**特例処理**を確定させます。

帳票（PDF）設計の細則

- PDFの宛名を「**最終承認者**」とする際の、下書き状態や多段承認時の表示ルールを定義します。
- 採番ルール（RNG-等）が既存の見積・請求と混ざった際の**一覧表示・検索性**を考慮します。

案件とのデータ連携

- 承認後の支払・契約取引を**どの単位で案件に紐付けるか**、監査上の見せ方を整理します。

【要件③】取引先重複防止の仕組み

入口の一貫性を保ち、マスタの品質を維持する

操作性：誤登録を防ぐためのステップ

- 候補が1件でも必ず選択させる方針の意図（誤マージ防止）をFAQ化し、現場の理解を得ます。

一貫性：登録経路を問わないルール適用

- チャット登録時だけでなく、手動の管理画面からの登録時にも同じ正規化ルールを適用します。

保守性：名称変更時のデータ整合性

- 取引先名の編集時に正規化名を自動更新するか、手動で確定するかの方針を決定します。

実装の優先順位と推奨スケジュール

依存関係を整理し、基盤となる論点から着手する

順序	推奨タスク	理由・目的
1	「出張申請・報告」の運用定義	画面・承認・帳票の 基本設計の筋 を一気に定めるため、最優先で決定します。
2	取引先重複防止 (③)	他機能への依存が少なく、 独立して進めやすい 要件です。
3	内部文書 (②) の機能開発	テンプレ、採番、承認など、 波及範囲が広い ため早期に着手します。
4	案件画面の文言・補足 (①)	②③の仕様が固まった後でも 整合性が取りやすい 部分です。

！ 要回答・要意思決定

開発着手への必須回答項目（まとめ）

決定が必要な事項	開発への影響範囲
☐ 出張申請・報告の運用ルート	承認画面の ☐ 入力項目・ ☐ ロジック・ ☐ 帳票出力の確定
☐ AI規程チェックの導入範囲	初回リリースの ☐ 開発スコープ・ ☐ スケジュールの確定
☐ 案件一覧の取引先表示ルール	フロントエンドの ☐ 画面表示仕様・ ☐ フィルタ機能の確定
☐ 取引先マスタの正規化ルール	データベース設計および ☐ マスタ管理 ☐ ロジックの確定

上記項目の決定をもちまして、詳細設計および実装フェーズへ移行いたします。